

令和4年度 三次市立八次小学校学校評価自己評価表【最終】

【学校教育目標】 進んで学び ともに伸びる ～ 自主・協力・創造 ～

令和5年2月17日

(自己評価)A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少しで達成)<80 D:(未達成)<60

中期経営目標		短期経営目標	評価項目	評価指標	評価		結果分析(○●)及び今後に向けた改善策(☆)	
					中間	年度末		
確かな学力と意欲の向上	主体的で深い学びによる学力の向上 ～一人一人の児童が「できた、わかった、考えた」を実感する授業～	主体的に学ぶ授業の創造	○児童の発達の段階や特性を踏まえた道徳科の授業づくり(問いの吟味, 考えの交流の場の工夫, 評価, ICT 機器の活用) ○道徳教育プログラムの作成 ○小中授業研究, 中学校教諭による指導 ○新聞記事活用した読解力の醸成 … 読む YOMU シート(読解力シート)	・「道徳が好き」と答える児童 90% ・児童「学ぶ意欲」に係る意識の向上	B	B	○●4月に行った児童アンケートでは、「道徳の授業が好き」と答えた児童が 81.2%に対し、1月は 82%で達成率は 91.1%であった。全体として大きな変化はないが、6年生は前回比+19P, 5年生は+8Pと肯定的に答えた児童が増え、取り組みの成果が見られる。本音を言い合い考えを深める授業づくりに取り組み、少しずつ本音と言える学級が増えてきている一方で、発言が一部の児童だったり、人間のもつ弱さについて深く理解できていなかったりと表現の仕方や授業展開に課題がある。 ☆来年度に向けて、上記に記載した課題が改善できるように研究の方向性を定めるとともに、自分の本音や意見を言うことのできる授業や集団作りに取り組み、道徳の授業が好きな児童が増えるよう学校全体で取り組む。	
				・三次市学力到達度検査において全ての教科で全国平均を上回る。(1月)		B	○●1,3,4年生については、すべての教科で全国平均を上回っており、基礎学力の定着が図れている。他の学年においては、それぞれ課題は違うが、全国平均を下回っている教科もあり、高学年では特に社会科において課題が見られる。 ☆課題が大きかった問題について分析を行い、学年末までにもう一度取り扱ったり、類似問題に挑戦させたりして復習を行う。また、授業改善をどのように進めていくか重点を明らかにし研修を組むなどして取り組む。	
	基礎的・基本的な学力の定着・向上	○国語科の学習や読書タイムを活用して「書く」力の育成(月1回八次小歌壇等) ○帯タイム:実態・学習内容に応じた計画的に実施(反復練習・読む YOMU シート・タブレット端末練習, 読書) ○家庭(自主)学習の工夫	・作品:年間一人3回以上, 出品(みよしことばフェスタ・中国新聞等)	B	B	○「文芸祭 短歌」「広島県立三次中学校・高等学校全国短歌大会」「みよしことばフェスタ」へ取り組み、出品した。また、全学年で「ふみの日」に合わせて短歌づくりを行い、中国新聞「中国歌壇」への出品も続けた。 ☆今後も、短歌づくりに継続的に取り組んでいく。中国新聞「ヤングスポット」「ニュース5・7・5」など、自分の考えを文章で表現する機会を効果的に設定したりドリルタイムを活用したりして語彙を増やす活動に取り組む。		
			・家庭学習に主体的に取り組んでいる児童の割合の向上(児童アンケート:肯定的評価 80%以上)	B	A	○家庭学習に主体的に取り組むことについては主に高学年で進めている。6年生は、国語、算数、理科、社会にバランスよく取り組むように指導している。5年生は、記録を残すカードを改善するなど児童にとってよりよい形を考え続けている。家庭学習に主体的に取り組む児童は約 90%だった。なかなか取り組めない児童には家庭との連携や低学年からの家庭学習の習慣化が必要であり、取り組んでいるところである。 ☆学校全体で組織的・系統的に指導するため、「進んで学ぶ力の段階的目標」等を来年度に向け作成している。		
豊かな心の育成	多様性を尊重し、一人一人がよりよい生き方を考え、主体的に行動する児童の育成	生徒指導上の諸問題の未然防止	○児童の生活基盤となる学級経営・生活の安定(生徒指導体制の確立と指導の充実) ①「八次小のきまり」に基づいた指導 ②共感的人間関係の育成 ③生活環境の整備 ④地域・保護者・関係機関との連携	・児童アンケート「学校のきまりやクラスで話し合ったことを守っている」 肯定的評価 85%以上	C	A	○11月実施児童アンケート、肯定的評価 6学年平均 93.5%(達成率 100%)。学年間の差は少ない。 児童会の月別目標だけでなく、様々な項目について、各学級や学年で児童に決まりの大切さや決まりの意味を意識させるはたらきかけが日常的に取り組まれていると考えられる。 ☆「規範意識の育成」のため、今後もポイントを絞って児童に明示し、自分たちの実態を見つめ、向上していこうとする意欲を高める取組と共に、適切な評価を行う取組を進める。	
				・教職員アンケート(生徒指導チェックリスト:肯定的評価 80%以上)	A	A	○教職員アンケート(2月実施)22項目中の肯定評価(22/22…達成率 100%) ☆学期ごとにアンケートを実施し、評価項目で低い部分があれば、生徒指導部会で分析と取組を確認していく。 ○暴力行為 0件(達成率 100%)	
				・暴力行為0件 ・いじめ問題の解決:100% ・不登校傾向児童の減少	B	B	○11月実施のいじめアンケートには児童 70件(6月より 9件減, 保護者 44件(6月より 2件増)の記述があった。記述されたものについては担任を中心に事情を聞き、解決に向け取り組んだ。(解決 100%) 2月中旬に第3回アンケート調査実施予定である。1,2学期に取り組んだ事案については、日常的に児童の様子を観察し、保護者と連携をとり経過を観察していく。 ●不登校傾向の児童は、昨年度末とあまり変化はない。保護者との連携は定期的に行うことを継続している。 ☆アンケートだけに頼らず、日常的に児童の実態を把握する取組を進める。また、気になる事案については、学年会や生徒指導部、管理職と連携して取り組む。支援機関(スクールS, 支援ルーム)と連携して取り組む。	
				・児童アンケート ①「ほめられて(低学年)」「先生が認めてくれて(高学年)」うれしかったことがある。 肯定的評価 80%以上 ②「自分達の学校や学級での生活をよりよくするために、計画を立てて行動」 肯定的評価 80%以上	C	B	○●11月実施児童アンケート、肯定的評価 6学年平均 77.4%(達成率 96%)、1～3年生平均 78.2%、4～6年生平均 76.2%と低学年と高学年の差は少なくなっている。様々な取組の中で、適切に評価しているつもりではあるが、児童に十分伝わっていないと考えられる。 ☆単に「ほめる」のではなく、評価の観点を事前に示すなど児童にも評価を意識させる。 ○●11月実施児童アンケート、肯定的評価 6学年平均 64.0%(達成率 80%)、1～3年生平均 63.1%、4～6年生平均 63.8%と低学年と高学年の差は少ない。コロナ禍における活動の制限のなかで、今年度も従前通りの行事や活動が実施できないため、児童の達成感が低くなっていると考えられる。 ☆感染症対策は十分に配慮したうえで、児童が互いに関わり合える活動を仕組み、自己評価させるよう取り組んでいく。	
信頼される学校づくり	「この学校で学ばせてよかった」と思われる学校づくり	小中一貫教育の深化・発展	○児童会生徒会連携, 小中連携会議・研修の実施, 道徳教育・外国語教育の推進(定期的な合同会議等) ○学年会・分掌部会の機能化, 時間の確保	・教職員アンケート ①「小中一貫体制の確立が教育推進に効果的であった」 肯定的評価 85%以上	A	B	○●教職員アンケートにおいて①「小中一貫体制の確立が教育推進に効果的であった」については、80%の職員が肯定的な回答をしており、達成率は 94.1%で、前回より 7.7P 減少した。 ②「子供と向き合う時間が確保できている」については、77.4%の職員が肯定的な回答をしており、達成率は 129%で、前回より 14.4P 上昇した。 ☆道徳科を中心とした合同研修を実施した。身につけさせたい道徳的な価値観を、研修を通じて小中学校で共有するとともに、発達段階に応じた目標設定を行うことができた。次年度に向けては、教材分析や中心発問等について、さらに目的を共有した取組を進めていく。 ☆研修日時等を工夫し、成績処理等の事務処理時間を確保することで、あゆみ作成時期の担任の負担感の軽減につながったと考えられる。今後も事務処理時間等の定期的な確保を行い、負担軽減に努める。	
				②「子供と向き合う時間が確保できている」 肯定的評価 60%以上	A	A		
				○積極的な情報発信:ホームページ「YATUGILETTER」等の定期的更等(週1回以上) ○学校・学年・保健・生徒指導通信の計画的な発行	・保護者アンケート ①積極的な情報発信 肯定的評価 90%以上	B	B	○●保護者アンケートにおいて、①「積極的な情報発信」については、86.4%の保護者が肯定的な回答で、達成率は 96%となり、前回より 2.7%減少した。 ②「学校満足度」については、90%の保護者が肯定的な回答をしており、達成率は 100%であったが、前回より 1.6%減少した。 ☆「週刊YATSUGILETTER」の内容の工夫が必要だと考える。行事だけでなく、授業の様子等の児童の学ぶ姿をより積極的に発信していく。
					②学校満足度 肯定的評価 90%以上	A	A	☆満足度について高い状態が続いているのは、教職員が綿密に保護者連携を行っている成果だと考える。学習指導や生徒指導上で必要な事柄は、保護者も協力的である。引き続き保護者とともに、安心して通わせられる学校体制を整えていく。